



名港花火大会



後期高齢者医療制度の発足に際して

国家公務員共済組合連合会 名城病院長 早川哲夫

後期高齢者医

療制度が二年間の準備期間を置いて七十五歳以上の国民を対象に本年四月から実施されました。この制度は高齢者の増加に伴い増加する医療費を安定的に確保するため、老若男女を問わず、広く、うすく、国民一人一人に医療費を負担してもらうことを目的にしています。たしかに、表面的には後期高齢者の医療制度を別に独立させ、高齢者自身は保険料の一分を負担し、若年者から約四割支援してもらい、残りの約五割は公費で補うので、何の問題もないようにみえます。さらに、後期高齢者は、複数の病気にかかったり、治療が長期にわたる傾向があるのので、高齢者の生活を支える医療をめざしていると説明しています。高齢者の中には、「地獄で仏に会った」ような気持ちがあったかもしれません。

各個人に専用の被保険者証が送られて来ました。これで、息子達に気兼ねせず医者に保険証を呈示できるとほっとしたことでしょう。しかし、よくよく見ると、息子の保険からはずされ、

保険料は自分の年金から天引きされるのがわかりました。国会でも悪い制度だから廃案にしようと思いであります。二年前に自分たちが通した法案です。自分たちの選挙が間近と思うので、恥も外聞もなく、おためごかしに、さも国民のためのように騒いでくれています。挙句の果てには、「長寿医療制度」などと心にもない名称を提案しています。

厚生労働省では六月四日に、後期高齢者医療制度について、国民健康保険から移った高齢者の世帯の六十九％で保険率が下がったと発表しています。ただ、年金が年一七七万円未満の世帯では六十一％、一七七～二九二万円では七十五％、二九二万円では七十八％と、年金収入の低い層ほど保険料の下がる率が低いことも判明しました。よく考えると、後期高齢者医療制度はお金の余裕のない人達の財布に厳しく、余命の短く収入の増加が期待できない人達に負担の増加を要求しています。思いやりの心を忘れてしまったようです。

政府の規制改革会議議長のK氏は某新聞に医療制度改革について寄稿して、「医師不足というが実は日本の病院数は人口比較すれば米国の三～四倍の多さだ」と医師の人数を病院の数にすりかえてごまかしています。同じ新聞の約一か月の医療特集にはOECDの二〇〇七年の統計では、人口一〇〇〇人あたりの就業医師数は日本が最低で二人弱、米国は約二・五人、フランス・ドイツは三・三・五人でした。日本の病院の勤務医の労働時間は、米国の週四〇時間の約二倍です。大変ひどい労働条件で昼も夜も働かされています。

日本国民も政・財界人の言葉にまどわされることなく、日本の医療のあり方と税金の使い方を真剣に考える時です。うかうかしているとお金があり、立派な道路もあるが、肝腎の行くべき病院が消えてしまいます。今回の高齢者医療制度が良い制度に変わることを祈っております。その前に日本の国民が良い政治家を選ばないと、また、ごまかされそうです。今後のなりゆきに注目しましょう。

研修病院へご理解を

名城病院は厚生労働省から臨床研修病院に指定されており、研修医が指導医のもと各科で研修を行っています。研修医は医師ではありますが、まだ初心者です。研修の際にお手数をおかけすることもあるかと思いますが、若き医師を育てて、これからのより良き医療の担い手にするために、ご協力のほどよろしくお願いいたします。お気付きのことがあれば、スタッフにお申し出下さい。



放射線診断科の役割

～画像診断の進歩と迅速正確な画像診断を目指して～

放射線診断科部長 山名大吾



皆様ご存知のように、最近の医療機器の進歩には目を見張るものがあります。

レントゲン博士がX線を発見してから、単純X線写真はきわめて早い段階から臨床応用されてきました。体の中身を透見できるという夢のような発見でした。しかし、単純X線写真はその特性から骨を観察することは得意ではありますが、内臓の変化まではなかなか情報が得られません。

そこで、例えば胃の病気を知るために、バリウムを飲んで胃の形

態を知るようになったのです。さらに、バリウムと空気のコントラストによる二重造影法が開発され、胃の粘膜病変が詳しくわかるようになりました。もちろん、内視鏡の進歩も格段です。

その後、血管造影の手技もどんどん発展してきましたが、何と云っても、1970年代に登場したCTの出現が、革命的でです。まず、頭部専用機が開発されましたが、これにより脳出血や脳梗塞の鑑別、脳腫瘍の存在診断などができるようになりました。脳出血と脳梗塞

の鑑別は症状からだけではなかなか困難なことがあります。脳出血ならば手術して血腫を取り除く必要がある場合がありますが、CTが登場するまでは脳出血であると確信をもって手術に踏み切ることはなかなか困難であ



ったと思われます。全身CTも開発され、いまでは頭から足先まですべて検査可能となっております。CTに遅れてMRIも登場して、それぞれの特性をいかした役割分担もほぼ確立してきた感があります。

現代最先端の医療機器を一言で表すならば、より非侵襲的で患者さんに優しい検査です。被曝量も低減されておりますし、とにかく早く検査が済みます。

しかし、早く検査が済むということは、毎日膨大な量の画像が発生しているということです。そこで、その処理が大変な労力になっております。機器が進歩すればするほど忙しくなるという、うれしい？悲鳴なわけです。そこで、臨床の片手間に画像診断して患者さんに説明するというに限界が生じてきて、もっぱら画像診断に従事する陣容が必要になってきております。

そこで、私に与えられた使命は、迅速に正確な画像診断情報を依頼科に渡すということです。いつも、画像の向こう側には患者さんがいるという意識で読影していきたいと思っています。



禁煙外来が始まって

内科外来看護師 佐藤千景



5月31日は世界禁煙デーです。これは世界保健機構（WHO）が1988年に禁煙を推進するために決定した記念日です。

ここ数年禁煙に対する意識が世界的にも高まり、愛煙家はますます肩身の狭い思いをされていることと思います。しかしながらたばこは、肺がんをはじめ多くの病気の危険因子であり、健康の維持・促進のためには禁煙を進めていくことは重要なことと言えます。日本における喫煙人口は1,700万人とも推測されており、近年は女性

の喫煙が男性のそれより増えています。実は喫煙をしていながら多くの方が禁煙を希望していま

す。たばこには精神的かつ身体的依存症があり、禁煙にはかなりの困難が伴います。いわゆるニコチン依存症です。禁煙外来では禁煙を直ちにしたいという決意のある方、またニコチン依存症であるかどうかを問診させていただき、そのうえで禁煙外来を受けていただくのに相当の方を対象としています。最近では市販の禁煙ガムを初め、医療用医薬品であるニコチンパッチも市販化されています。また経口用の禁煙治療薬も発売されています。いろいろな方法で禁煙

に取り組むことは可能ですが、一番肝心なことは本人に辞める意志があるかどうかです。一人で悩んでいる方、ぜひこの機会に禁煙について考えてはいかがでしょうか。お問い合わせは、当院内科外来まで。



<http://www.who.int/tobacco/wntd/2008/en/index.html>

WHOの世界禁煙デーサイト

新任ドクター紹介

●整形外科



伊藤 研悠 いたう けんゆう

7月より岡崎市民病院より転任いたしました。医師5年目で、専門を脊椎にしたいと考え、念願の名城病院に就職させていただきましたことができました。未熟者ですが、頑張りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

●整形外科



永吉 隆作 ながよし りゅうさく

この7月に国内留学として鹿児島大学整形外科から参りました。側彎症のみならず、鹿児島では経験できないような脊椎変性疾患等の手術についても数多く経験して、充実した研修にしたいと考えています。半年間ですが、宜しくお願い致します。

患者さんにやさしい
最新MRI装置放射線部放射線技師
杉山 智哉

当院では、患者さんにやさしいMRI検査をご提供するために、最新のMRI装置を二台導入しました。

MRI検査は、X線の被ばく無しに自由な断面を撮像するだけでなく、血管や膵管・胆管のような管腔を描出できることから、幅広く医療の現場で活用されています。

当院に導入された装置の最大の特徴としては、患者さんがMRI検査を受けたくない理由である『狭い・うるさい・時間がかかる』という三大要因を、他の装置に比べ改善している点です。また、従来、造影剤を使用しなければ撮像

することが出来なかった部位の血管像を、当院の装置では造影剤を使用することなく撮像出来る点です。

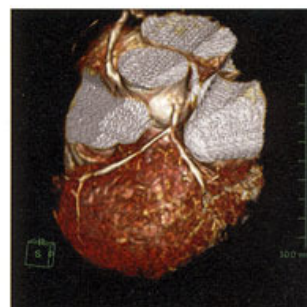
本装置を導入してからは、閉所恐怖症でMRI検査が苦手であった患者さんでも、開放性のある装置で圧迫感が軽減されているため、安心して検査が行えるようになりました。MRI検査時の独特の騒音については、検査中に眠られる方がみえるほどであり、患者さんにとって苦痛とならない程度の音に抑えられています。検査時間は高速撮影法が行えるため、従来よりも短時間に検査を行うことが可能です。また、造影剤を使用できない患者さんの非造影による血管撮像は、医師からの要望も強く大変有効な検査となっています。

今後は、従来では不可能であったMRIでの非造影による心臓の血管（冠動脈）撮像を確立し、診

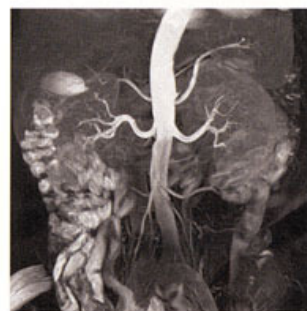
療に役立てていきます。

MRI検査に興味を持たれた方は、遠慮なく主治医や担当スタッフにご相談ください。

当院の装置で造影剤を用いずに撮像した画像です。



◇心臓



◇腎動脈



職員のヨガ教室

ICU・透析室看護師
田邊 智美

今年の3月から院内で職員対象のヨガ教室をさせて頂いています。私がヨガを始めたきっかけや院内でヨガ教室を行うに至った経緯をお話したいと思えます。

ヨガを始めたのは3年ほど前になります。学生の時からこれといった運動をしないまま過ぎてしまい、長年の運動不足の解消にとヨガスタジオに通い始めたのがきっかけです。始めた当初はポーズも呼吸も見よう見まねで行っていま



したが、身体を動かすことが気持ちよく、楽しくレッスンを受けていました。多く

のポーズや呼吸法が出来るようになると、ヨガを通じてその日の自分の体調や心の動きなど、ヨガを行う時間が自分と向き合う時間となり、不思議と身体と心のバランスがとれるようになっていくことに気がきました。そのため自然とヨガをすることがストレス解消につながり、私の毎日の習慣となりました。そしてヨガを続けながら少しずつ勉強し、インストラクターになることが出来ました。

病院で勤務する医療従事者は、身体や心の病気を持った人と日々接しています。私は看護師として働く中で病気の人を癒すためには自分が健康でなければならないと考えています。当たり前のことの様ですが、3交替勤務で生活が不規則な事や仕事で受けるストレスも多いのが現状です。私はインストラクターの資格を生かしながら職員の健康増進に役立つ事が出来ればと考え、職場でヨガをさせて頂く事になりました。

今後も院内ヨガを通じて皆が健康で働ける事や職員の交流の場になることを目指して行ってゆきたいです。大勢の方のご参加をお待ちしています。



赤澤先生の ボランティア活動

腎臓内科の赤澤貴洋（あかざわきよひろ）先生をご紹介します。赤澤先生は透析患者さんの血流不全を改善するカテーテル手術を年間500件以上行っており、その際に患者さんの好みの音楽をかけ、緊張や苦痛の軽減を図っています。

そんな赤澤先生にはもうひとつの顔があります。それは医師仲間や医療関係者、そして患者さんの

娘さんでプロ歌手の大咲舞さんらと「ハートフルホスピタル」というバンドを組み、名城病院はもちろん県内の病院や福祉施設などを訪れ、慰問コンサートを行っています。

赤澤先生は毎日の診療のなかで、人生の大先輩であるおじいちゃん、おばあちゃん、そしてたくさんの患者さんたちが大変な病魔と闘い、そのご家族が献身的に看病する姿をみ

たり、患者さんから感謝の言葉をいただいたときには、感動を受けたり自分への励みとなり、その想いを歌にしているそうです。

「昨年は「経過良好」今年は「永い二人だから」という患者さんやその家族、そして医療



従事者への応援歌をつくり、自主制作でCD発売しました。なおCDの売上げは、日本臓器移植ネットワークなどに寄付しています。

この活動は、新聞やラジオでも話題となりテレビ番組「ボランティア21」（全国）への出演をきっかけに番組の主題歌として使われています。

仕事と趣味の重なる部分を活かしたボランティア活動を、これからも続けてほしいと思います。



名城病院診療等のご案内

<http://www.meijohosp.jp>

■ 診療科目

内科・循環器科・小児科（小児循環器）・外科
整形外科・脳神経外科・心血管外科・皮膚科・泌尿器科
産婦人科・眼科・歯科口腔外科・神経内科

※神経内科及び午後の診療等、詳しくは 医事課 (052)201-5311
内線2132 にお問い合わせ下さい。

※医療福祉に関するお問い合わせは、
医療福祉相談室 内線 5105まで

※医療機関の方へ
病診連携に関するお問い合わせは、
病診連携室 内線 2151まで

■ 診察受付時間

新患受付 午前8:30～11:30まで
再来受付 午前8:00～11:30まで

■ 面会時間

平日 午後0:30～8:00まで
土・日・祝

但し、①小児科病棟は、午後7:00まで
②ベビーの面会は、
午後0:30～1:30まで
午後3:30～4:30まで
午後6:30～7:30まで } の3回です。
③ICU室への面会は30分以内に限定させていただきます。

■ 診療案内

休診日 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12月29日～1月3日）・創立記念日（11月6日）

■ 所在地

〒460-0001 名古屋市中区三の丸1-3-1
TEL (052) 201-5311 FAX (052) 201-5318



編集後記



小学生の息子が鈴虫の卵を育て始めたのは4月の終わり頃だった。いいかげんな息子の飼育だからふ化さえしないだろうと思っていたのだが、予想に反してすくすくと育ち、今では毎晩その鳴き声を披露してくれる。2～3匹ならさぞ涼しげなのだろうが、30匹の大合唱ともなれば、騒音以外のなにものでもない。

お粗末な飼育への仕返しとばかりに盛大に鳴くので、寝苦しい夏の夜に拍車をかけている。何事も過ぎたるは体に良くないと夜毎痛感させられる。暑い日が続きますが、みなさん冷たい物の取りすぎなどで体を壊さぬよう注意してください。
(Y.A)